

クールジャパン人材育成に係る取組状況



Japan. Cool Japan.

平成30年1月12日（金）
内閣府 知的財産戦略推進事務局

「人材育成検討会第一次とりまとめ」への対応状況（外国人材）

「高度人材ポイント制」におけるクールジャパン分野の取扱い

【「第一次とりまとめ」における方向性】

クールジャパン関連の高度外国人材が、「高度人材ポイント制」を活用しやすくなるよう検討する。（例：特別加算の対象への追加）【内閣府（知財）、法務省】

【対応状況】

以下のような内容について、経産省等の意見も聞きつつ、法務省と協議中。

- （特別加算対象の例）・特定の学校（デザインのトップスクール等）の卒業生
- ・国内外で評価されているアワード等（デザイン分野等）の受賞者 等

〔（注）学歴、職歴などの項目毎にポイントを設け、一定のポイント数に達すると出入国管理上の優遇措置（永住許可要件の緩和等）を受けることが可能〕

在留資格等に係る分野特性による課題について

【「第一次とりまとめ」における方向性】

クールジャパン分野において、高等教育機関を卒業して日本において創作活動を行おうとする外国人が、卒業してから就職活動を行う、補助的業務からキャリアをスタートするといった分野の特性によって、在留資格の要件を満たすに至る以前に帰国せざるを得ないといった指摘について、実態を調査し、日本のクールジャパン関連産業の発展に資する外国人材の活用・集積のため取り得る方策について検討する。【内閣府（知財）、法務省、関係省庁】

【対応状況】

法務省の意見も聞きつつ、経産省・文科省等と協力し、コンテンツ、デザイン等の業界団体、企業、高等教育機関（専門学校、大学）等への実態調査（ヒアリング、アンケート）を実施（昨年9月末～）。以下のような項目について現在調査中。

【企業等への調査項目】

- ・外国人材の雇用に係るニーズ
- ・企業側にニーズがあったにも関わらず、外国人材を就労させることができなかった原因 等

【高等教育機関への調査項目】

- ・外国人留学生の就職活動の実態
- ・就労を希望していたにも関わらず、就労できなかった原因 等

引き続き調査・分析を実施していくが、資料3(P2)の一部に、当調査で得られた問題意識についても記載している。

クールジャパン資源の再生産メカニズムについて

- ・ 2025年～2030年頃を見据え、中長期の社会・経済の変化に対応する今後の知財システムの在り方に関する調査・検討を行うため、昨年12月22日に知的財産戦略本部の下に「知的財産戦略に関するビジョン専門調査会」を設置したところ。
- ・ クールジャパンについては、日本社会が今後もクールジャパンを生み出し続け、経済成長の原動力にしていくには、そのエッセンスが何かを見出し、クールジャパンが再生産される仕組みを構築することも、長期的に重要であるとの問題意識から、議論を深めていく予定。

(想定される視点)

1 クールジャパンのエッセンスは何か(何がどのような外国人をなぜ惹きつけるのか)

(例)

- ・ 緻密さ・きめ細かさ
- ・ 道を究める
- ・ 自然との調和・共生
- ・ 安全性・清潔さ

魅力を高めるコンテクストの提示も重要

→ 合わせて、国や地域等によって、どのような日本文化に訴求力があるかを見極めることも重要ではないか。

2 多様性の受容(外国人の長期滞在等)など

各時代の魅力を残すといった重層性、多層性が外国人の長期滞在などの原動力になっている面がある。海外から受容した多様な文化を洗練・発展させてきた歴史を踏まえても、外国人の受け入れを含む多様性の涵養といったマクロの視点も重要。

→ 広く訴求するものに加え、ハイエンドな文化の長期的浸透力にも着目した人材の育成・受入れも必要。 3